



世界に広がる、日本の『当たり前』

校長 安達 紀史

今夏、世界最大のスポーツの祭典ともいえるサッカーワールドカップが北米の地で幕を開けました。日本代表は開幕戦でオランダと対戦し、2度のリードを許す苦しい展開の中、最後まで諦めずに戦い抜き、土壇場で同点に追い付く見事な試合を見せてくれました。テレビの前で思わず声をあげた、という方も多かったのではないのでしょうか。

この試合で世界の注目を集めたのは、結果だけではありませんでした。試合後のスタンドに残った日本のサポーターの姿です。多くの方がゴミ袋を手に、自ら進んで清掃を始めたその光景は、海外メディアでも大きく取り上げられました。「これは誰かに言われて行っているのではない。使った場所を次に使う人のためにきれいにするという考えが、自然に根付いているのだ。」といった称賛の声が、世界各国から寄せられています。FIFA の公式でもこの様子が紹介され、あるサポーターが「それが文化なんです。選手への敬意であり、仲間やスタジアムへの感謝でもあります。」と語っていました。

では、このような「文化」は、どこから生まれるのでしょうか。

私は、その大きな土台は、学校での日々の清掃活動にあると感じています。日本の学校では、掃除は単なる作業ではなく、教育活動の一つとして大切にされてきました。自分たちが使う教室や廊下を、自分たちの手で整える。この当たり前の積み重ねが、公共の場を大切にしようとする心を育てているのではないのでしょうか。スタンドで静かにゴミを拾う姿は、まさにその延長線上にあるものだと思います。

こうした日本の教育のあり方は、今、世界からも関心を集めています。例えばエジプトでは、日本の教育に学ぼうとする取組が進められており、カイロに開校したエジプト日本学校では、子どもたちが協力して教室の清掃に取り組んでいると聞きます。私たちが当たり前のように続けてきたことが、実は世界に誇れる文化であったことに気付かされます。

本校でも、日々の清掃活動を大切にしています。生徒たちは「使った場所を美しく返す」ということを、日々の実践の中で学んでいます。それは単にきれいにする技術ではなく、そこに関わる人への思いやりや感謝の心を育てる営みでもあります。

これからも、本校では学力の向上とともに、心を育む教育を、ていねいに積み重ねてまいります。世界の舞台で見られたあの姿を誇りに思いながら、その精神を次の世代へとしっかりとつないでいきたいと思っています。



運動会

5月30日(土)、本校では運動会を開催しました。当日は天候にも恵まれ、子どもたちはこれまでの練習の成果を存分に発揮しました。個人競技では、一人一人が自己ベストを目指して全力で走り切る姿が見られました。また学年種目では、台風の目や蛇の皮むき、大縄跳びに取り組み、仲間と力を合わせて挑戦する姿がとても印象的でした。協力することの大切さや達成感を味わう貴重な一日となりました。多くの保護者の皆様にご来校いただき、温かいご声援を賜りましたこと心より感謝申し上げます。今後も子どもたちの成長を支えてまいります。



ボランティア活動

本校では、地域とつながる体験活動として、さまざまな行事においてボランティア活動を行っています。6月には、次のような取り組みが予定されています。

- 6月6日(土) 芋掘りの集い
- 6月21日(日) ファミリースポーツの集い
- 6月27日(土) ウォーターフェスティバル

このうち、「芋掘りの集い」では、本校の中学生が地域の幼児のお手伝いを行いました。優しく声をかけながら一緒に芋を掘る姿はとても微笑ましく、子どもたち同士の温かい交流の場となりました。中学生にとっても、思いやりの心や社会性を学ぶ貴重な機会となっています。今後の行事でも、地域の皆様とともに活動しながら、子どもたちの豊かな学びと笑顔を育てていきたいと考えています。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



五中生の活躍

【硬式テニス部】

第9ブロック総合体育大会 男子団体 第3位

【剣道部】

府中市剣道個人優勝大会 男子中学2年生の部 第3位